

## 第2回公立大学法人鳥取環境大学評価委員会 議事概要

日 時 平成24年1月19日(木) 13:45～14:50  
場 所 鳥取県庁第2庁舎4階 第27会議室  
出席者 《公立大学法人鳥取環境大学評価委員会委員》  
寺垣琢生(弁護士)  
中永廣樹(前鳥取県教育長)  
福嶋登美子(株式会社ブリリアントアソシエイツ代表取締役)  
柳谷由里(学校法人米子自動車学校理事長、学校法人かいけ幼稚園理事長)  
《新生公立鳥取環境大学運営協議会関係者》  
鳥取県：中山企画部参事監  
鳥取市：松下企画推進部長  
《学校法人鳥取環境大学》  
古澤学長、谷口常務理事

### ●中山局長

- ・今日はお忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。前回は12月27日に第1回の評価委員会を開催させていただき、大学の中期目標をご議論いただいたところである。本日は、その会議での宿題、指摘を踏まえ中期目標をブラッシュアップさせたので、また御意見をいただきたい。
- ・志願者も順調に伸びており、県内外から数多くの志願者が増えている。これも公立大学として鳥取環境大学をより魅力あるものという受験生の方々の支援、声援の声だと思っている。
- ・我々はこのような声を受け、皆様方のご指摘を受けてより良い中期目標を定めていきたいと思っているので、忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたい。

### ●事務局

- ・本日議事で予定している中期目標について、一括して事務局から説明した後で、委員から中期目標に対してご意見を伺いたい。中期目標について、中山事務局長から説明させていただく。

### ●中山局長

- ・資料1を説明(略)

#### ○中永委員

- ・資料1 中期目標案の1ページの基本的な目標のところだが、要するに人材の育成ということ、地域に開かれて、地域と連携して地域の知の拠点だということだと思うが、地方の公立大学として地域と繋がった役割ということも必要と思う。
- ・2ページの教育に関する目標のところ、大学の役割や人材の育成が書いてある。その学部をまとめた教育に関する目標のところ、「世界を舞台に活躍できる、実践的な能力を有した人材を育成する」と書いてあるが、実践的な即戦力となるような力を持たれるということはあると思うが、その元となる豊かな人間性、人間形成という文言も必要と思う。大学だけでできるものではないが、大事なことだと思う。3ページでも教育内容等に関する目標の中でも、人間形成的な記述が必要と思う。
- ・4ページの(6)学生支援に関する目標のところ、留学の支援ということが付け加えてあるが、資格取得、国家試験などをきちっと取って就職していく支援が必要だと思う。
- ・8ページの経費のところ、外部の研究資金の導入ということが必要だと思う。いろいろな研究を補助してもらえる民間的な研究費も重要。
- ・9ページで中間評価に関する説明があったが、中間評価をした場合、当然公表はされると思うが、第三者的な評価にせよ、中間評価的なものにせよ、これらを公表するというのを文言として入れるべき。

#### ●中山局長

- ・人材育成の部分で、学部教育、専門教育の部分は書いているが、豊かな人間性をもった人材育成という部分は、この中では確かに弱いので、大学のほうで特に異論がなければ文言を追加したい。
- ・資格取得の部分は、4ページの(5)就職支援に関する目標の中で、キャリア科目の充実や体系的な就職指導の実施や就職に有利となる資格取得の促進という形で書いているが、もう少し表現を充実したい。
- ・外部資金については、5ページの上の部分に(2)研究実施体制等の整備に関する目標の中で、競争的外部資金の獲得というところで研究費の拡大と謳っている。
- ・中間評価の公表では、公表することは当然だが、まだ書ききれていないので、評価を公表するという表現を追加したい。
- ・基本的な目標のところ、人材育成だけでなく、地域の知の拠点、学問の拠点についても必要だというご指摘だと思うが、学長がよければこの部分に、大学の一つの役割として追加等したい。

#### ○寺垣委員

- ・2ページの環境学部の目的が4つ書いてあるが、初めの2つは分かりやすいが、3つ

目の循環型社会の実現、4つ目の理想的な居住環境の創造について、この表現では人材育成の目標ではなく学部の目標になっている。この2つの表現だけが突出しているように感じた。

●中山局長

- ・表現が突合していないようなので表題を修正したい。

○中永委員

- ・教育内容をいろいろと工夫し教育しているが、保護者や学生が授業をどういうふうに捉えているのか、評価的なものを書く必要があるのでは。
- ・受験生やその保護者が、大学に対して期待していることなど動向をつかむ調査はしているのか。

●古澤学長

- ・もちろん大学生に対してはアンケートを実施している。保護者に向けては冊子を出して情報はしっかりと伝えているが、保護者から意見を聞くようなアンケートはやっていない。

●中山局長

- ・3ページの(3)教育の質の改善及び向上に関する目標の中で、①学生による授業評価制度の活用で意見を取る部分と、6ページの2地域に開かれた大学づくりに関する目標の(2)のところの数値目標ではないが、高校、保護者との意見交換だとか、大学活動に関するアンケートの実施による幅広い意見の収集を大学にお願いしたい。中期目標には、明確に何回するとかは書いていないが、中期計画の中でこういった会議があるとかは盛り込んでいただきたい。

●古澤学長

- ・大学が、高校生、保護者の意見を把握することは大変難しいので、いろいろご協力いただきたいと思っている。

○中永委員

- ・高校にも協力してもらいながら、大学をどう評価しているのか、どんなところを充実してほしいと思っているのか、これなら受験しようとなってくるには、大事な要素だと思う。難しいのはわかるが、アンケート調査とか何らかの方法が必要だと思う。

●中山局長

- ・大学運営協議会、教育・研究審議会では教育長が入っているので、県側としても意見把握と、せつかく公立大学となるので県立高校、私立高校からの意見が入るような仕組みを県教委と大学と話しをしていただきたいと思います。

#### ○福嶋委員

- ・今、時代の注目テーマの2学部ができるということで、私が一番気になるのは、中期目標期間中の早期黒字化を達成するということ。どう推進していくのか、どう達成していくのかが気になる。県民が一番気にしている部分だと思う。
- ・この前も言ったが、学生の確保、途中で辞めないとか、どうなっていくのかその辺が未知数なゆえに、掲げた目標は完遂できるようにがんばるところが一番大変だと思う。素晴らしい目標はできているが、一番心配している。

#### ●中山局長

- ・志願者を多く確保することは公立化する目的の一つでもあり、中期目標の中では概括的にならざるを得ないと思っている。ただ、その中でも志願倍率、入学定員、高校訪問など具体的な手法については、中期計画、年次計画の中で書いていくべきと思うが、あえて中期目標の中に書き出しているところ。
- ・中期計画については、これから県と市、大学と具体的な計画やプランを練っていく中で、委員の皆さんにもご意見をいただき、最終的には、知事、市長が認可することになる。
- ・具体的な行動計画、対策をよりこまかめに書くことを肝に銘じるとともに大学側にもご協力をお願いしたい。
- ・志願者確保に関する目標の中で、はっきりと取組みを実施すると書いているので、気構え的なこと、大学の運営の基礎的な部分を少しここに追加したい。

#### ○柳谷委員

- ・西部地域を代表して、鳥取環境大学は西部地域からすると非常に距離を感じている。西部地域にもぐっと近くなったような表現を。鳥取と一言で言うと鳥取市に重なるようなイメージの部分もある。県内全域とか中西部を含めたというような表現が入ってくると西部地域の間人としては非常に歓迎できると思う。
- ・私も委員を仰せつかり、周囲の人に鳥取環境大学がどのように変われば我が子を入れようかと思うのか、何十人かの人に聞いてみた。
- ・コミュニケーション能力が非常に必要であると。複雑な社会の中では人と人が関わっていく上でコミュニケーション能力がしっかりと身につけていて、自分の考えや意見が言えること。往々にして山陰の人は自己主張が少なく、控え目であると言われていたので、大学でしっかりと教えていただきたい。

- ・発想が豊かである、どうしたら目標が達成できるのか考える人材を育てていける大学ならいいなと思う。
- ・せっかく環境という部門があるので、地元の良さをしっかりと伝えていただきたい。例えば県産材を使った机、椅子が配置されているようなハード面も必要であると思う。
- ・現場との連携が必要である。新しくできる経営学部では、すぐに実践できる人材、大学の出口の部分で即企業がほしいと思う人材の育成のために、しっかりと現場体験を活かしていく部分を強調していただきたい。
- ・県内に限らず日本には伝統工芸がたくさんある。こういうところに若い人のアイデアが入ることで、新しく発展させることができるのではないかと、そのようなことができる大学であれば素晴らしいと思うので、このような趣旨を反映していただきたい。
- ・6ページの経営体制に関する目標のところが一番大切なのは、学長をはじめ教職員が一致団結していくかだと思う。これは企業でも同じこと。先ほど達成すべき数値の説明があり、オープンキャンパス等の教職員参加率80%以上を目指すところがあるが、これはこれで素晴らしいと思うが、これではオープンキャンパスの時だけになってしまうので、年間を通してずっと継続的に学長をはじめ教職員、関係者の皆様が常に交流が持てるような、そこの考え方に開きが起こらないような仕組みがあると組織運営上としては非常にいいのではないかとと思う。

#### ●中山局長

- ・私もおそらくコミュニケーション能力或いは地元の良さだとか、地域の伝統工芸の部分が、いわゆる人材育成、或いは就職対策の人材というような点で触れて行くのかなと思うが、ここは工夫したい。
- ・コミュニケーション能力であるとか、或いはきちんとものが言える人間と言ったような部分というのは、どうしても大学側の就職の対策の担当の方からもよく聞くので、これからの大学の人材育成、就職対策の一つでもあり、この辺りは工夫をしたい。
- ・経営体制の部分については、若干数字的なものを挙げるのは無理かなと思うので、文言的にその辺り、教職員が一致団結して経営改善等と掲げているが、そこに、1年間を通じて、或いは継続してというよう、途切れることが無い、一過性に終わることがないというようなイメージを出すよう表現を工夫したい。
- ・県内全域の部分は、できるだけ東部だけではなく、中部も西部も全部だということが見えるよう随所に工夫をしたい。

#### ○柳谷委員

- ・もちろん、ひいては日本中から、願う所は海外からというような特色ある大学にしたいわけだが、まずは県内というところが、足元としては大事と思う。

○寺垣委員

- ・中永委員が言われた人間形成という所であるが、多分入れるとしたら1ページの基本的な目標、この所にうまく工夫ができればと思う。
- ・地域を担い世界に羽ばたく人材。これが一つのキャッチフレーズと思うが、何となく技術的な感じがする。そこに何か理念的なものが入れればいい。
- ・今日来られていないが、明治大学は「個の確立」。個の確立は開学以来ずっとやっていて、個人の尊厳を、個人を尊重して、自分も確立していくと。それで他人も尊重すると。個の確立というのが一つのキャッチフレーズになっており私はそれが好きだが、何かその辺りの人間形成的、或いは、人間性、その中のいい言葉が無いかと考えている。

○柳谷委員

- ・今の話を聞いて、文字を見ながら思ったが、国語の先生がいたら是非教えて欲しい。人材の材の字であるが、材料の材を長年日本では通例的に使っているが、財産の財というような漢字もあり、自分の会社ではそのような使い方をしているが、この辺りはどうというのが効果的なのかなと思う。

○中永委員

- ・鳥取県は宝の財を使っている、平井知事も敢えてそれを使っている。
- ・一般的な文書で使う場合には、ちょっと説明を要する必要性が出てきたりとか、少し勘違いしたりする人もある。

○寺垣委員

- ・人と物という意味も出てくるのでは。

○中永委員

- ・今の豊かな人間性とか人間形成は、教育基本法では確か人格の完成と書いてある。
- ・人格の完成というのは抽象的で難しいが、理念としてはとっても大事なこと。
- ・最近よく使われるのは、鳥取大学でも使われているが、「人間力」というような言葉を使っている。そうすると少し分かりやすくなる。
- ・豊かな人間性でも分かるが、豊かな人間性は使いすぎて、いろんなところで使われている。学び力とか、人の気持ちがちやんと察せられるとか、感動できるとか、学んでいけるとか、そういうような豊かな人間性というのか人間力と言うのか、そういうものを少し大学の教育の中でも考えて行くべきと思う。

●古澤学長

- ・大学では、人間形成、大変大事な部分であり、一番基になる所だと思うが、ここでそういう部分が欠落しているのでは。
- ・1ページの表で、学部の上に人間形成教育センターと書いてあるが、本学では、このセンターで1・2年生の学生について、人間形成科目も含めて、プレゼンテーション、問題発掘能力、コミュニケーション能力を高めるため、非常に意識してプロジェクト研究を通してやっている。この研究は、11年の歴史があり、他から高い評価を受けている
- ・もちろん、それで十分学生がそういう能力を持っているかとは言い切れないが、他の大学よりは、能力を持っていると思っている。
- ・そんなこともあり少し抜けているのかなと思うが、書き足すことに関しては全然異論はない。

●中山局長

- ・基本目標の部分で、人間力、或いは人間形成の部分ということで、表現を充実する部分と、先ほど学長が言ったように教育に関する目標で、新しい環境学部と経営学部の目的等は書いているが、根本の人間形成、或いは教養の部分という所はまったく書いていないので、そこを少し現在の取組等を踏まえて検討したい。

●古澤学長

- ・目標がどうしても先のことになるので、新しいものが出てくるわけで、現在の取組が抜けてくるのかもしれない。

●中山局長

- ・それを踏まえて、豊かな人間を引き続きと言うか、より多く作るのだという、2つの面で工夫していきたい。

○柳谷委員

- ・現在、環境大学では人間形成に力を入れているということか。

●古澤学長

- ・もちろんプロジェクト研究には、ものすごく力を入れている。今日も発表会があり、テレビ局も入っていたので、テレビで放送されると思う。

○柳谷委員

- ・そうであるなら、11年の歴史のある人間形成というものを是非PRしていただきたい。

●古澤学長

- ・それから、地元、地域貢献という言葉は、公立大学では大変大事なことだが、一方で大学というのは、地域だけではなくて、我々は日本、或いは世界ということも、特に環境学部はそう考えている。経営学部は、比較的地域貢献、そういう経営とか企業経営などがあるので、少しその辺は分けて考えているが、大学全体としては、地域貢献はもちろんのこと、日本全国、世界もと広く考えている。

○柳谷委員

- ・だとすると7ページの志願者確保に関する目標で、いろいろ達成すべき数値目標が書いてある。
- ・私も学長と同じで、日本中からいろんな学生に来てもらえるような特色ある大学になったらいいと思っている。
- ・その中で、エリアを大阪、兵庫、中・四国、福岡ということを中心に考えており、併せて受験者の動向を見た上で九州、東海エリアとあるが、是非とも、経費がかかるが最初の数年ぐらいは幅広くPRをして、志願者の確保に取り組まれたらと思う。

●古澤学長

- ・全国にPRしているわけで、していないわけではない。
- ・特に環境学部には、これまでも北は北海道、南は沖縄・九州から来ている。
- ・学部によってそういう差がでてくるのは仕方がないと思うが、教員対象説明会、高校訪問は、人が出かけて行き説明する必要があるし、全国というのは難しい。どうしても志願者の多い所、特に近畿、四国、中国、九州など、西日本となる。環境にモチベーションが高い学生というのは、日本中に散らばっていて、そういう人は結構来ている。特に、今年は圧倒的に県外から来る学生が多い状況。

●中山局長

- ・限定的にやるというようなイメージが強くなるようであれば、もうちょっと文章表現的にし、エリアはどうするのだという話は、中期計画でもっと明確に書いた方が、柳谷委員がおっしゃるようにより広い所から人材や受験生は集めるのだ、でも具体計画は定めますという意味がとれるので、ここは数値目標的な書き方がいいのか、文言的に書くのがいいのか、そこは工夫したい。
- ・決しておっしゃるように、狭いエリアだけでやっていく、対象エリアで大きなエリアはあるが、日本全国或いは先ほど言われた世界からというような、少し大きな目標を掲げることも中期目標では大事と思うので、その印象が払しょくできるような格好で検討したい。

●古澤学長

- ・参考として、本学が高等学校に環境論文を募集している。44都道府県から募集があり、応募がないのは3県だけ。

○柳谷委員

- ・大学と幼稚園では全然規模が違うが、私も広い経験と豊かな人間性を有した先生を、いろいろな所から募集したいと思った時に、トップが動くということは非常に大きい影響がある。
- ・京都辺りの幼児教育学科のある何校か訪問したら非常に速い反応で、今まで無かった学校から応募があったという経験がある。こつこつと毎年続けているが、もちろん人が動くとお金がかかるということもあるが、学長が来たというふうになれば、44県もすぐ47県になるかもしれないし、先生やら実際に動かれるということも必要かなと。これは別に明記する必要はないが。意外とそういう効果もあったことをお伝えしたい。

●古澤学長

- ・確かにそういうこともあるのかなと思う。
- ・今年は、九州、広島、岡山、兵庫、鳥取、島根全部回った。

○中永委員

- ・中期目標とは離れるが、志願者は多いようだが、一般入試も多いのか。

●古澤学長

- ・配布資料の最後を御覧いただきたい、A方式とセンター1期試験が現在募集中だが、一番新しい情報でA方式では約5.6倍、センター1期試験が約7倍になっている。

○中永委員

- ・公立化ということが効を奏してきたということか。今年は私立としての入試になり併願ができる。

●古澤学長

- ・そうである。

○中永委員

- ・来年は国公立の入試になる。

●古澤学長

- ・今年は問題ないが来年度が問題。ここできっちりやらないといけない。

○中永委員

- ・現場的な発想で行くと、偏差値が上がっていくと、受験してくる。この相乗効果は出てくるのではないか。

○柳谷委員

- ・安心しないで、6年間のことを考えなくてはいけない。

●古澤学長

- ・最初の1年の立ち上がりが一番大事だと思っている。ここを上げ損なうとまた元に戻ってしまう。しっかり対応したい。

●中山局長

- ・中期目標については、今日いただいた意見を、明日の議会の委員会にも報告したい。
- ・また、来週、大学の経営審議会や教育・研究審議会の候補者の方にも御説明し、知事、市長とも協議して、成案にしていきたいと思う。
- ・できれば、2月議会に中期目標を提案したいと思う。
- ・また、それを受けて、中期目標の後、中期計画を、今度大学と設置者の方で共同して作ることになり、そちらについても御面倒だが評価委員の意見を聞いてということが法律にも書かれている。また書類等も送るので、御意見を聞かせていただきたい。是非引き続きよろしくお願ひしたい。

●松下鳥取市企画推進部長

- ・本日は、お忙しい中お集まりいただき、感謝申し上げます。
- ・また活発な御議論をいただき、今後6年間のしっかりとした道しるべができていくような実感がふつふつと湧いてくるような次第である。
- ・委員の方には大変お世話になるが、今後もいろいろな御意見をいただき、この中期目標をしっかりとしたものになるように、御助力をお願いして、最後のごあいさつとさせていただきます。今後ともよろしくお願ひしたい。

以 上